

FM 会話用 発信機

TX-11 α 単5電池1本仕様

■ラジオと発信機の間調

FM発信機はFMラジオを受信機として使用するため、FMラジオの受信周波数と発信機の発信周波数を合わせる準備が必要です。

FMラジオの種類は問いません。89MHzが受信できる物であればOKです。

基本的に発信機の周波数は89MHz前後に設定されています。用意したラジオの近くに、電源をいれたTX-11 α を置いてください。ラジオのチューニングを89MHz前後に合わせると「ピー」というハウリング音が聞こえる部分があります。これはラジオのスピーカーから出た音を発信機のマイクが拾い、それが繰り返されて起こる現象です。これで、ほぼ周波数が合った状態です。ラジオにイヤホンをセットするか、TX-11 α を少し離れた所に置き、ハウリングが発生しない様にして、綺麗にマイクが拾った音が聞こえるようチューニング調整をしてください。

■受信距離を伸ばすには

- 受信機のアンテナを伸ばした状態にすること。可能であれば垂直方向が良い。
- 電波は金属、コンクリートなどでさえぎられます。そういった場所を避けて、窓に面した場所など障害の少ないところへセットする。
- 出来るだけ見通しのきく場所で受信すること。
- 発信機のアンテナをカットするなどの改造を行わないこと。

■電池交換

ウラふたを①をスライドさせ、単5形電池②(1.5V)(電池寿命約120時間アルカリ使用時)をセットします。電池の隣のスライドスイッチを③オン側(赤丸)にすると電波が発射されます。なお、アンテナ④は本体に直付付になっています。

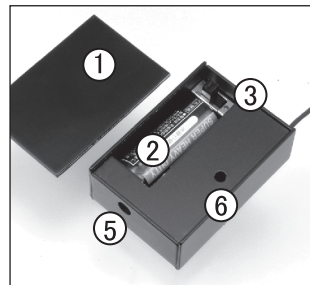
■周波数変更コアについて

TX-11 α には周波数変更コア⑥が搭載されておりますが、日本国内においては周波数変更の必要はありません。至極まれに、FM放送に近

接している時、周波数変更が必要になる場合があります。変更するには、まずFMラジオを希望の周波数に合わせます。89MHz前後を選択した方が調整がしやすくなります。次にコアを回して行きますが、ほんの少しずつ動かす事が肝要です。コアを時計方向に回すと周波数がダウンします。コアはとても小さいので御注意ください。回しすぎると、元に戻すことはほぼ不可能となります。FM発信機の修理依頼はこのケースがほとんどです。くれぐれもご注意ください。

御注意！：アンテナに張力がかからないよう御注意ください。

④



TX-11 α

- 外形・カラー／30×15×43mm・アンテナ85cm／ブラック●重量／46g(マンガン電池含む)●電源・寿命／単5形電池(1.5V)1本・120時間(アルカリ)・60時間(マンガン)

- ①ウラふた ②単5電池(アルカリ推奨)
- ③電源 ④アンテナ ⑤マイク ⑥コア

